

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 6 月 18 日 (2020.6.18)

【公表番号】特表 2018-508571 (P2018-508571A)

【公表日】平成 30 年 3 月 29 日 (2018.3.29)

【年通号数】公開・登録公報 2018-012

【出願番号】特願 2017-560858 (P2017-560858)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/26 (2006.01)

A 6 1 P 3/04 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 1/12 (2006.01)

A 6 1 P 1/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 5/50 (2006.01)

A 6 1 K 47/68 (2017.01)

A 6 1 K 9/08 (2006.01)

A 6 1 K 47/18 (2006.01)

A 6 1 K 47/12 (2006.01)

A 6 1 K 47/26 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 0 7 K 16/28 (2006.01)

C 0 7 K 14/605 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 38/26

A 6 1 P 3/04

A 6 1 P 3/10

A 6 1 P 1/12

A 6 1 P 1/00

A 6 1 K 39/395 C

A 6 1 K 39/395 L

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 39/395 M

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 5/50

A 6 1 K 47/68

A 6 1 K 9/08

A 6 1 K 47/18

A 6 1 K 47/12

A 6 1 K 47/26

C 0 7 K 19/00 Z N A

C 0 7 K 16/28

C 0 7 K 14/605

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 2 年 4 月 27 日 (2020.4.27)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

本発明のGLP-1R抗体融合タンパク質は、GLP-1またはその類似体を含み、それがそのC末端において、ペプチドリinkerにより、GLP-1R抗体の軽鎖のN末端に融合されている。この抗体融合タンパク質は、GLP-1およびその類似体と比べて、同様または改良された生物活性と、長い半減期とを有する。好ましいGLP-1R抗体融合タンパク質の軽鎖可変ドメインの配列は、配列番号1、2、3、4、5、または6の全部または一部を含み、軽鎖定常ドメインの配列は、配列番号10または11の全部または一部を含み、重鎖可変ドメインの配列は、配列番号7、8、または9の全部または一部を含み、かつ重鎖定常ドメインの配列は、配列番号12の全部または一部を含む。より好ましいGLP-1R抗体融合タンパク質の軽鎖可変ドメインの配列は、実質的に配列番号1、2、3、4、5、または6であり、軽鎖定常ドメインの配列は、実質的に配列番号10または11であり、重鎖可変ドメインの配列は、実質的に配列番号7、8、または9であり、かつ重鎖定常ドメインの配列は、実質的に配列番号12である。最も好ましいGLP-1R抗体融合タンパク質の軽鎖可変ドメインの配列は、配列番号1、2、3、4、5、または6であり、軽鎖定常ドメインの配列は、配列番号10または11であり、重鎖可変ドメインの配列は、配列番号7、8、または9であり、かつ重鎖定常ドメインの配列は、配列番号12である。